

価値創造プロセスの進化

環境への配慮

キューピーグループの事業は、豊かな自然の恵みに支えられています。そのため、グループ行動規範に「地球環境への貢献」を掲げ、持続可能な社会を次世代へ引き継ぐための取り組みを行っています。キューピーグループでは、サステナビリティ基本方針および環境方針に基づき、「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」「持続可能な調達」の重点課題において積極的に活動を推進しています。

キューピーグループ 環境基本方針

当社グループは、事業活動が自然の恵みに支えられていることを深く認識し、環境保全を経営の重要課題と位置づけています。

「品質第一主義」の理念のもと、環境負荷低減を追求してきた長年の取り組みを基盤に、環境方針を策定し、環境保全活動を推進しています。

環境マネジメント

<https://www.kewpie.com/sustainability/management/environment/>

キューピーグループ環境方針

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動において環境配慮に努めます。

- 1 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
- 2 環境の影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
- 3 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

キューピーグループ
環境ビジョン2050を策定

当社グループは、今年度から始まった2025-2028年度中期経営計画を機に、2050年を見据えた環境ビジョン「キューピーグループ 環境ビジョン2050」を新たに策定しました。

このビジョンは、持続可能な地球の未来に貢献するグループとなるため、「脱炭素・資源循環・自然共生」の3つの分野における環境課題に積極的に取り組む方針を示しています。

この環境ビジョンを共通の目標とすることで、グループ従業員やステークホルダーと協力しながら取り組みを着実に推進し、持続可能な社会の構築に貢献します。



サステナビリティ投資（環境投資）

当社グループは地球環境の貢献のための投資を積極的に行ってきました。

その動きをさらに加速させるため、2025-2028年度中期経営計画より具体的な環境貢献のための投資枠を新たに設けました。この投資枠として、4年間累計で50億円を設定しています。

また、2022年度より社内炭素価格（ICP）の運用を行っています。これにより、脱炭素を含めたトータルの投資対効果を示すことができ、脱炭素への取り組みがしやすい環境を整えています。

環境投資枠で導入していく主な設備

食品ロスの削減・有効活用	・ロス発生抑制のための設備 ・有効活用実現のための設備（乾燥化、バイオガス化など）
プラスチックの削減・再利用	・再利用を推進するための設備
水資源の持続的利用	・循環利用できる設備 ・排水設備の更新
CO ₂ 排出量の削減	・太陽光発電設備 ・省エネ設備の更新

環境への配慮

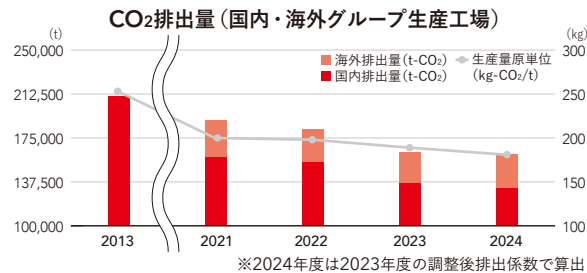
気候変動への対応

当社グループは、サプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定を進め、さらなるCO₂排出削減のための取り組みを推進しています。

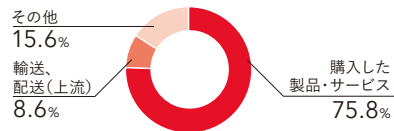
グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の改善、再生可能エネルギーの導入を推進しています。

事業活動に関わるCO₂排出量（Scope1、2）に加え、社会全体のカーボンニュートラルの実現に向けてサプライチェーン全体のCO₂排出量（Scope3）の把握に取り組んでいます。

原材料調達から製造、物流、消費に至るまでの各段階での環境負荷を可視化し、効果的な排出量削減計画の策定に活用していきます。



Scope3のカテゴリ別構成比

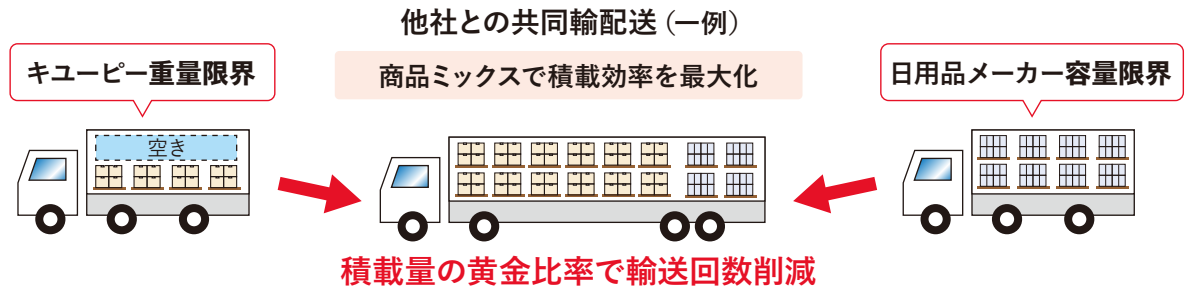


異業種協業による共同配送

環境保全への貢献だけでなく、物流業界全体の課題解決をめざした革新的な取り組みも推進しています。その中核となるのが異業種協業による共同輸送です。ライオン株式会社、サンスター株式会社、日本パレットレンタル株式会社といった異業種企業との協力により、効率的な物流システムを構築しました。

マヨネーズやドレッシングは、トラックの重量制限に収まるように積むと空きスペースが生じる課題がありました。食品と日用品という荷姿の異なる商品を混載することで、積載効率を大幅に向上し、その結果CO₂排出量を最大65%削減しています。さらに、リードタイムを1日延ばすことにより在庫予定データの作成を可能にし、納品にかかる作業効率を上げる取り組みも実施しています。これにより、ドライバーの労働環境改善や物流分野における環境負荷低減を図っています。

環境への配慮と持続可能な事業運営の両立により、社会と企業の持続的な成長を支えています。



都市の緑化と生物多様性を促進するためのコンソーシアムを発足

アーバンファームを通じた都市の緑地化による生物多様性の促進をめざす「SHIBUYA Urban Farming Project」を一般社団法人渋谷未来デザインと共同で立ち上げました。17社のパートナー企業と共に都市における環境保全と持続可能な食文化の創造に取り組んでいきます。



 **SHIBUYA Urban Farming Project**
<https://fds.or.jp/shibuya-urban-farming-project/>

主な活動

渋谷エリアでのアーバンファーム設置の推進／
 ファームによる環境貢献可視化／地域連携による食農教育／
 新たな食文化創出／農活動における健康推進

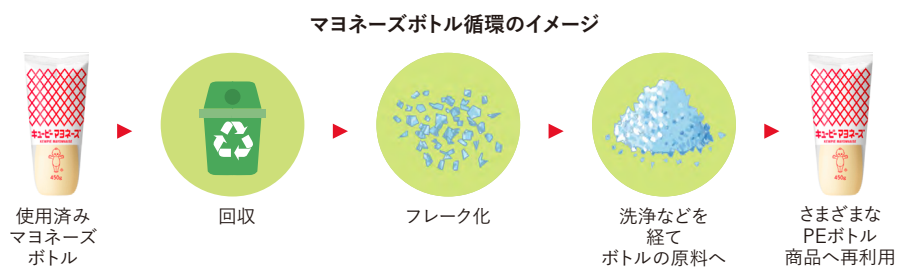
環境への配慮

プラスチック循環に向けた協働

ドレッシングに使用されるPETボトルは、リサイクルの洗浄工程で油が残り、再生PETの品質に悪影響を与える懸念があるため、リサイクルの仕組みが社会的に実装されていません。

国内のマヨネーズのボトルには、主にポリエチレン（PE）が使われています。PEは食品包装に広く使われていますが、種類が多く他の素材と複合しているものが多いため、飲料PETボトルのような水平リサイクルの仕組みが社会的に実装されていません。

これらの課題に対して企業の枠を超えて協働することで、ボトルを資源循環できる社会をめざします。2024年度は、再生利用に向けた技術検証と効率的なボトル回収に向けた現状把握を目的に、小売店の店舗でドレッシングボトル、マヨネーズボトルと共に回収実証実験を実施しました。



VOICE



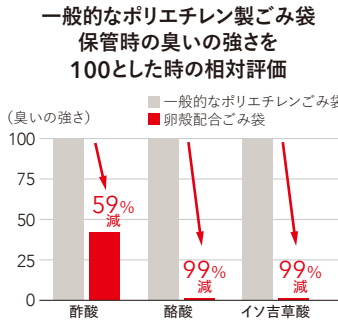
最近量は販店が環境をテーマにした展示会やイベントを開催するようになり、当社の取り組みを紹介する機会をいただくことが増えました。その中で感じるのは、サステナビリティに関心を持つお客様が思っている以上に多いということです。イベントにはお子さまから幅広い年代の方々が参加してくださるので、このような機会を継続していきたいと考えています。

斉藤 和佳
キューピー株式会社
広域家庭用支社

卵殻の機能を活かした高度利用

当社グループは、日本で生産される卵の約10%を使用しており、製造工程で発生する年間約2万8千トンの卵殻の100%再資源化をめざしています。社会価値と経済価値の創出を視野に、さらなる高度利用に向けた取り組みを進めています。

卵殻の小さな穴がたくさん開いている性質を活かし、バイオマスプラスチック樹脂メーカーの株式会社ネクアスと協働で、卵殻を25%配合した消臭機能付きごみ袋を開発しました。この革新的なごみ袋は臭い成分を効果的に吸着する特性を持ち、調布市主催の多摩川クリーン作戦で活用いただきました。



ジャムの製造過程で発生する食品残さをアップサイクル

食品残さを「発生させない」「有効活用する」の両面から食品ロス削減に取り組んでいます。

アヲハタは株式会社ファームステーションと協働で、製造過程で発生するジャムなどの食品残さを原料にアルコール（エタノール）を発酵・精製し、オリジナルの『アヲハタのジャムで作った除菌*ウエットティッシュ』を開発しました。



ジャム・マーマレード等を製造



製造過程で
食品残さが発生



FARM STATION
Co., Ltd.
Fermenting a Renewable Society



ファームステーションと連携
食品残さからエタノールを発酵・精製

※本品はふき取った後の菌を減少させるもので、すべての菌を除菌するものではありません。

精製したエタノールを使用した
オリジナルウエットティッシュを作成